

---

# ラクガキ先生

はねうちわ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラクガキ先生

### 【Nコード】

N8655C

### 【作者名】

はねうちわ

### 【あらすじ】

素敵に適當が信条のラクガキ先生とその弟子が素敵に適當に生きるを追求する。

## 第1話「我が教え」（前書き）

ラクガキ先生と弟子が織り成すノベルです。  
ジャンルは「適当」

## 第1話「我が教え」

『ラクガキ先生』

ラクガキ先生「弟子よ！我が教えを述べてみよ……！」

弟子「はい、先生……！素敵に適當です……！」

ラクガキ先生「では、問う……！」

弟子「はいっ……！」

ラクガキ先生「素敵に適當に障子に穴をあけてみる……！」

弟子「なっ、なんですと……！？その障子は湯布院作次郎先生作のラクガキ先生自慢の一つ……！」

ラクガキ先生「良いからあける……！」

弟子「はい……！」

弟子「やっぱりできません!!!!!!!!!!」

ラクガキ先生「やらんか!!!!!!!!!!」

弟子「できません!!!!!!!!!!」

ラクガキ先生「ならば、こんなもん、こっじゃ!!!!!!!!!!」

バキッ!!!!!!!!!!

弟子「先生!!!!!!!!!!叩きつけて何やってるんですか!!!!!!!!!!」

ラクガキ先生「お前がくだらぬ物の価値に氣を取られたから、取り返しの付かないことになったんじゃ!!!!!!!!!!」

バキッ、ボキッ!!!!

弟子「おやめくさいiiiiiiiiiiii!!」

ラクガキ先生「やめねえよ、これ!!!!!!!!!!ああ、楽しい!!!!!!!!!!」

ドカツ、バキ、ベキベキ!!!!!!!!!!

弟子「先生、すいませんでした！！！！！！も、もうおやめください！！！！！！」

ラクガキ先生「わかった。」

弟子「おお…なんと適当な辞め方だ…。はっ！？もしや、先生…！？」

ラクガキ先生「素敵だったろ…？」

弟子「は、はい…」

続く！！！！！！

## 第1話「我が教え」（後書き）

じわじわ来てくれたら嬉しい限りです。

## 第2話「主役になるといつこと」(前書き)

適当文学シリーズ

## 第2話「主役になるといつと」

ラクガキ先生「弟子よ……！」

弟子「はい……！」

ラクガキ先生「今日は回転寿司を食べに来ている……！」

弟子「はい……！」

ラクガキ先生「回っておるだろ……！」

弟子「はい、回ってますね！」

ラクガキ先生「回ってるだろうよ……！」

ラクガキ先生「弟子よ……！好きなだけ取って食べ……！」

弟子「は、はい……では、サーモンを」

ラクガキ先生「甘い弟子よ……」

弟子「えっ……！」

ラクガキ先生「おいっ、店員……！」

店員A「へい……！」

弟子「（ま、まさか、先生は高級な回せないネタを頼むのか！？）」

ラクガキ先生「イカ」

店員A「はい、イカ入ります！！！」

店員B「イカ毎度！！！」

ラクガキ先生「うむ……。おい、イカだ！！！！！」

店員A「はい、イカ追加入ります！！！」

店員B「イカ追加毎度！！！」

ラクガキ先生「よし、イカくれ！！！！！」

店員A「はい、イカ追加！！！」

店員B「イカ追加！！！」

弟子「（なつ、なぜ先生は回ってないネタではなく、1番安い皿の回っているイカばかりを、わざわざ握ってもらっているんだ！！？）」

「

ラクガキ先生「おい、店員！！！！！」

店員A「はいっ！！！！！」

ラクガキ先生「イカだ！！！！！」

店員A「はい、イカまた追加！！！」

店員B「へ、へいっ、イカ追加！！！」

ラクガキ先生「イカだあああ！……！！」

店員A「はい、イカ追加あああ！……！！」

店員B「へいつ、イカ追加あああ！……！！」

弟子「（先生、やめて、恥ずかしいよ！……！！）」

ラクガキ先生「イクあああ！……！！」

店員A「イクあああ！……！！」

店員B「イクあああ！……！！」

弟子「（先生、みんなこのやり取りを見てるよ！……！！と、いうかこの店員さん達、やさしすぎ……まっ、まで……！？もしや……！？）」

ラクガキ先生「おいしい、店員！……！！！！！！」

店員A「はい！……！！！！！！」

ドクン

ドクン

ラクガキ先生「アガリだ……。」

店員A「へいつ、あがり（お茶）はセルフサービスになりやす！」

なぜかその時、僕は拍手した。他のお客さんも皆、つられて拍手をした。

それは、先生にではなく、最後まで先生に、ちゃんとした接客をした店員Aこと、社員の石栗雄三さん（34）に向けられた物だ。彼は今、主役になったのだ。

ラクガキ先生「素敵だろ…？」

弟子「はい…」

つづく

## 第2話「主役になるということ」(後書き)

最近、寒いですね・・・。

ストーブという単語が頭をよぎります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8655c/>

---

ラクガキ先生

2011年1月16日07時47分発行